

総合学科に変わり、地域との連携を強化

—本校総合学科セラミック系列3年間の取り組みとその成果を振り返って—

滋賀県立信楽高等学校 杉村 大樹

1. はじめに（信楽焼と本校の変遷）

日本六古窯のひとつに挙げられ、天平14年（742年）聖武天皇の紫香楽宮造営にあたり、瓦が焼かれたのが発祥です。

本校は昭和26年、県立甲賀高校分校（定時制）として開学、翌27年再編により県立甲南高校分校（定時制）、同33年、全日制工業課程窯業科に改編、同48年、信楽工業高等学校として独立、窯業科2学級、デザイン科1学級、同57年、窯業科1学級減、普通科1学級新設となり、校名変更し3科をもった特色ある後継者育成と産業発展の大きな期待を担って信楽高等学校として新たに誕生しました。昭和62年、窯業科をセラミック科に科名変更し、ファインセラミックスの製造分野にも力を入れた、伝統工業と先端技術を学べる魅力ある学校へと発展を遂げました。地域産業の要望を答えるためセラミック関係の学習内容も幅広く取り組めるよう環境を整えました。

平成23年7月、魅力と活力ある県立学校づくりに向け、生徒の興味・関心や進路希望等に応じた教育を提供し、魅力ある教育を展開するとともに、多様な選択科目の開設をはじめ、部活動や学校行事などの集団活動に活用化、施設や設備の効果的な利用などの観点から学校活力の維持向上を図ることを目的として、高校再編計画が出されました。

本校もその再編にありましたが、同窓会、地域住民、地場産業界の皆様の活動もあり、分校となることは回避できました。平成26年、1学級減、2学級総合学科に改編しました。セラミック系列・デザイン系列・普通系列の3系列となりました。

地場産業界と地域との連携を図り、新しい信楽高校として生まれ変わりました。



2. 総合学科セラミック系列に改編し、地域との連携を強化

総合学科に改編し、ふるさと学の導入に伴い、地域との連携を強化し様々な取り組みを行うことができました。

○1年次野焼き体験学習

10月に焼成の原点である野焼き体験を県立陶芸の森に協力してもらい、1年次の基礎実習で制作した10cm以内の動物をモチーフにした作品を焼成しました。事前に野焼きの知識を学習し、陶芸の森に行きました。1年次80名を4班に分かれ、陶芸の森の施設見学・海外アーティスト研修室での講演・野焼き体験美術館作品鑑賞を実施し学習することができました。



野焼き体験

○1年次信楽作家協会による茶道体験

11月に本校に信楽作家協会に協力していただき、1年次80名の茶道体験学習をしました。奥田英山氏に実演する前に自ら制作された『茶碗』で抹茶をたてられ茶道を生徒たちと一緒に楽しみながら、「用と美」の大切さを感じる焼きものの魅力について語られてから実技に入られました。茶道体験後は、陶芸の森で研修されている、1名海外アーティストをお招きし、通訳を交えて講演していただきました。共同作品の魅力を講演していただき、実技にうつり、1クラス40名で2作品を制作し、完成させることができました。生徒たちは四苦八苦しなながら、一生懸命制作し、いままです本校にない作品が生まれました。



セミナーハウスでの茶道教室



海外アーティストによる実演

○2年次陶芸の森作家講師による登り窯作品制作・焼成作業体験学習

陶芸の森に協力をさせていただき、陶芸の研修作家を招いて2年次に作品制作の指導をしていただきました。信楽焼の伝統のひとつである。薪窯焼成技術の次世代への継承を目指し、登り窯の焼成を実施しました。本校には講師に田尾晃氏に来ていただき、独自のたたら制作を教えていただき、土の変化や土味の魅力について多く語っていただいた、生徒たちも普段とは違う土の使い方に驚き、素晴らしい学習の機会をもらいました。完成した作品は陶芸の森の登り窯で焼成をしました。2年次全員で陶芸の森に出向き、松波氏による信楽の歴史や薪窯について学びました。薪割りや窯焚きを体験し学習することができました。



登り窯の様子



制作の様子

○2年次社会人聴講生

平成18年から陶芸における生涯教育の充実、生徒の交流を目的に、広く一般の社会人聴講生を募集しています。募集人数は6名ですが、応募者は平均3倍あり人気の高い事業の1つです。実習内容は、釉薬基礎・手ひねり成形ろくろ成形を2年次と共に学んでもらっています。成果が満足であると認められた場合は、修了書を交付しています。



社会人聴講生の授業の様子

○2年次地場産業・陶芸職場体験学習

総合学科改編に伴い、セラミック系列独自のインターンシップを考え、信楽町内を中心に依頼し、12社のインターンシップを実施しました。(有)小川頭三陶房・大塚オーミ陶業株式会社・株式会社加陶・株式会社三彩・内裏野窯・株式会社澤善・古谷製作所・信楽陶器工業組合・艸方窯・壺八・紫香陶房・京セラ株式会社。セラミック系列の生徒は全員地場産業の実態を実際に体験し地域との連携を図りました。生徒たちは実際の陶器産業を肌で感じ、業界の厳しさや、作家のノウハウや意識を学ぶことができました。



紫香楽陶房の様子



小川頭三陶房の様子



内裏野窯の様子

○成安造形大学の連携事業信楽高校PR映像共同制作

本校総合学科は、成安造形大学と高大連携をしています。平成28年成安造形大学と連携し、本校のPRビデオを制作をしました。大学生のアイデアを駆使し、本校生徒はアテレコなど実施し、本格的な設備の中ビデオ編集を手がけることができました。



大学でのアテレコの様子

○甲賀市 生涯学習課 「学びの体験学習」生徒派遣

平成28年11月3日甲賀市主催の小学生対象にしました、学びの体験学習に1つブースを設け、本生徒による七宝焼き体験学習を実施し、甲賀市に生徒の派遣をしました。生徒は教える難しさを体感し、子供たちは喜んで七宝焼きの魅力を感じてくれました。



学びの体験学習指導の様子



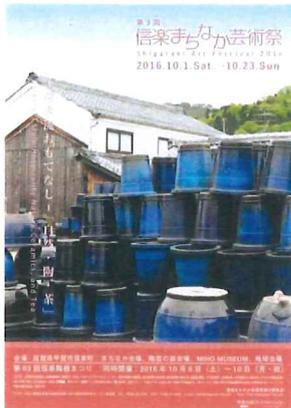
七宝焼き指導の様子

○3年次信楽まちなか芸術祭作品出品

平成28年10月1日から10月23日の期間、甲賀市主催による信楽まちなか芸術祭が3年に1度開催されました。今日まで続いていた信楽の陶器文化。火鉢が盛んで全国シェアの80パーセントを占め、町の至るところで大量の火鉢が積まれていました。町はその歴史を



刻み続ける中で、ここしかない特異な風景を信楽では当たり前前の風景ですが、初めて訪れた人にとっては新鮮で、発見や驚きをコンセプトに信楽まちなか芸術が企画されました。信楽高校として、参加出品をすることになりました。本校が総合学科になり、3年目の節目の年に行われることもあり、セラミック系列・デザイン系列に作品提供の依頼がありました。大鉢の成形については、地元の企業（日産陶業株式会社）を訪問し、大鉢を提供してもらいました。その後、各系列に分かれて、成形された製品を装飾して、本焼きを信楽窯業試験所に頼み、完成させることができました。信楽駅前に花をそえ、観光客を喜ばすことができました。



公式ポスター



鉢に制作する様子



駅前の様子

○3年次伝統工芸士・社会人講師による実習

後継者育成を図るため地場産業界から特別講師として伝統工芸士の徳地祐二氏によるろくろ成形実習を授業週6時間、生徒や社会人聴講生に自らの伝統の技術を教えてくれました。地元の陶芸作家に指導してもらえることもあり、生徒たちの技術をのばしてくれました。



○長浜盆梅展作品提供

盆梅とは鉢植えの梅、梅の盆栽のことです。滋賀県長浜市観光協会より、平成25年に信楽高校と連携を図り、高校生による鉢制作を実施し、長年の歴史を誇る長浜盆梅展の鉢として会場を本校の鉢で一部添えることができました。樹齢100年の盆梅に本校の生徒が制作した光景を見て感動をしました。今年度も依頼があり、総合学科として初めて提供する鉢とあって、制作に身の引き締まる思いです。



盆梅展の様子

○滋賀県大津市 J A ピザ窯作成依頼

大津の農業祭に向けて、滋賀県大津市 J A より、本校にピザ窯制作の依頼を受けました。J A が提供する野菜や果物をどのようにして提供できるのかを考え、ピザを提供することになりました。簡易的で持ち運びができる窯を使って、簡単に焼き上げできる窯の制作の要望がありました。三年次の課題研究を利用し、半年かけて制作に入りました。はじめは試行錯誤を繰り返しながら、失敗を繰り返しながら、ナウチー窯を元に制作し完成することができました。試食会で実用できることを確認して、J A に提供し、農業祭では本校が制作したピザ窯が使用され貢献することができました。



手前：ナウチー窯 奥：試作窯

3. 3年間の成果と課題

地域との連携をはかり、さまざまな成果が得られました。本校が地域の理解と協力があり成り立っていることを実感しました。普段では体験できない学習や陶芸家とのふれあいを通じて、多くのことを学ぶことができました。地域からの要望を受け、生徒派遣や事業派遣、本校のスキルアップのための事業依頼など、今までになかった取り組みによって、生徒たちの考える力、地域の方とのコミュニケーションをはかり、ふるさと信楽の学習を学ぶことができました。

今後の課題として、事前学習など実施し、ふるさと信楽の歴史を学び、地域の方々とコミュニケーションをはかり、時代のニーズに合わせた学習が必要と思いました。学校と地域との連携はとも話し合いの場が必要であり、お互いに求めているものをあわせ、スキルアップとともに向上できるように考えなければならないと思いました。



県立陶芸の森産業展示館



甲賀市立信楽中学校

本校が制作した作品などを広く地域の方々に拝見していただくために、中間発表展を開催しました。